

番号	8 - 10	申請者	脳神経内科医師 藤本 彰子
【審査申請課題】 ALS患者における運動直後タンパク質・炭水化物摂取の効果に関する研究			
【審査課題の概要】 軽度～中等度の筋力低下を示す筋萎縮性側索硬化症（ALS: Amyotrophic lateral sclerosis）の患者に対して、適度の筋力増強訓練、有酸素運動は一時的に機能維持に有効である可能性がある。 運動直後にタンパク質または分岐鎖アミノ酸（BCAA: Branched Chain Amino Acid）を摂取すると筋肉増強に効果的と言われている。BCAAは、バリン、ロイシン、イソロイシンの3つのアミノ酸の総称であり、筋タンパク質合成促進・分解抑制、筋損傷軽減⁴⁾、持久運動能力の維持といった効果がある。また、運動後にタンパク質に加えて糖質をともに摂取するとインスリン分泌が促進し筋タンパク質合成が促進するため、これらの栄養素の組み合わせは運動後の栄養補給として推奨されている。 回復期リハビリテーション病院に入院中でサルコペニアの基準を満たした患者を対象にBCAA食品を8週間摂取した場合、握力や下腿周径、BMIがBCAA未接種群と比較して優位に増大したとの報告がある。 ALS患者における、診断時の体重減少の程度や病初期の体重減少速度は独立した生命予後予測因子であり、背景にエネルギー代謝の亢進が存在するといわれている。体重維持を目的とした高炭水化物食、高脂肪食が生命予後を改善させたという報告がある。 以上のことから、歩行可能なALS患者に対し運動療法を行い、運動直後に高タンパク・分岐鎖アミノ酸に加えて高炭水化物食を摂取させた場合、筋タンパク質合成が促進し、運動機能あるいは呼吸機能が維持できると仮説を立てた。 本研究では、歩行可能なALS患者に対し、運動療法と運動直後タンパク質・炭水化物摂取の栄養療法効果について検討する。			
審査結果	承認 （ 令和8年8月28日 ）		